

## 第2回 野生復帰体験講座「集まれコウノトリファン! + ジオ!!」を実施しました

第2回目の講座は、コウノトリの郷公園内に設置している仮設人工巣塔で営巣しているコウノトリの観察と鎌谷川に生息する生き物調査を実施しました。

巣塔の観察では、双眼鏡を使用して、約30分間ヒナや親鳥の動きを観察し記録しました。鎌谷川に生息する水辺の生き物調査では、受講生一人ひとりがタモ網を持って川に入り、生き物を捕獲して水槽に入れ、観察し記録しました。魚類、甲殻類、両生類など色々な生き物を観察することができました。



## 2013年度フィールドワーク実習の参加者を募集

フィールドワーク実習は、地域を歩き、地域に学ぶことから、人と自然が共生する地域づくりのために必要な手法を学ぶ場です。みなさまのふるってのご参加をお待ちしております。

| 開催日                         | テーマ・講師                                    | 集合場所 |
|-----------------------------|---|------|
| 第2回 10/13(日)<br>14:00~16:00 | 竹野海岸ジオ・エクスカージョン<br>先山徹(兵庫県立大学)            | 竹野猫崎 |
| 第3回 11/16(土)<br>14:00~16:00 | 豊岡まちなかジオ探索「こんなところにもジオが!？」<br>松原典孝(兵庫県立大学) | 豊岡駅前 |

◆対象：中学生～一般 ◆定員：20名 ◆参加料：無料

申込方法等：当日、集合場所で受付します。事前申し込みは、保険手続きの関係上、5日前までとし、①氏名 ②年齢(生年月日)・男女別 ③住所 ④電話番号(あればFAX番号、E-mailアドレス) ⑤〇月〇日「フィールドワーク実習」への参加希望を明記したハガキ、FAX、E-mailいずれかの方法でコウノトリの郷公園まで申し込んでください。(それ以降については、電話でお問合わせ下さい。) \*詳細は、当公園ホームページをご覧ください。

## 鶴見カフェのお知らせ

郷公園の研究員等とコウノトリについて気軽に話しあう鶴見カフェを、毎月第3日曜日の午後4時から豊岡市中央町のサンストークアベニュー内「なごみ茶屋」(兵庫県豊岡市中央町3-37)で行っています。お気軽にご参加ください。飲物・ケーキ代500円程度が必要です。(詳しい内容等は当公園のホームページ内お知らせ欄をご覧ください。

## コウノトリの個体数 (H25.6.30現在)

### 1 飼育コウノトリの個体数

| 区分                  | オス | メス | 計  |
|---------------------|----|----|----|
| 県立コウノトリの郷公園         | 30 | 34 | 64 |
| 附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター | 14 | 12 | 26 |
| 養父市八鹿町伊佐地区放鳥拠点      | 1  | 1  | 2  |
| 朝来市山東町三保地区放鳥拠点      | 1  | 1  | 2  |
| 計                   | 46 | 48 | 94 |

### 2 野外にいるコウノトリの個体数

| 区分              | オス | メス | 不明 | 計  |
|-----------------|----|----|----|----|
| 放鳥コウノトリ         | 9  | 9  |    | 18 |
| 野外繁殖により増えたコウノトリ | 18 | 32 | 4  | 54 |
| 野生個体            |    | 1  |    | 1  |
| 計               | 27 | 42 | 4  | 73 |

コウノトリ通信に関するご質問・ご意見等がありましたら下記までEメール又は電話等でご連絡ください。

問い合わせ先  
兵庫県立コウノトリの郷公園  
〒668-0814 豊岡市祥雲寺字二ヶ谷128番地  
TEL: 0796-23-5666  
FAX: 0796-23-6538

E-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp  
ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp  
開園時間 : 9:00~17:00  
休園日 : 毎週月曜日(休日に当たるときはその翌日)・12月28日~1月4日

# コウノトリ通信

(題字：山岸哲園長)



兵庫県立コウノトリの郷公園  
平成25(2013)年 7月 1日発行

No.8

## コウノトリの遠出(長距離移動)

兵庫県立コウノトリの郷公園 田園生態研究部 部長補佐 大迫義人

動物は、今いる場所が、生活する上でまたは繁殖する上で不適になるとそこを出ていったり、または独り立ちするとともに親から離れていったりします。これを、生態学的な用語として「分散」と言いますが、私たちが使う言葉では、「遠出」または「長距離移動」がしっくりくるかもしれません。コウノトリにおいても、野生復帰計画による放鳥によって、または野外での繁殖による増加によって、同様に遠出をする個体が出現しています。今回は、彼らの遠出の記録やその理由について紹介します。

### 放鳥個体の遠出

放鳥時に回収された2羽を除き、2005~2012年に計26羽のコウノトリが放鳥されてきました。そのうち1歳以上の亜成鳥および成鳥は20羽おりましたが、その個体の最初の遠出は、2006年1月に起こりました。

2005年に放鳥された5羽は、その場所であるコウノトリの郷公園から出ようとしませんでした。やっと、12月に入って郷公園から飛び出るようになりましたが、豊岡盆地からは出ることはありませんでした。ところが、2006年1月20日に1羽が見あたらなくなり、発信器による衛星追跡の記録をみたところ、不明個体は、豊岡盆地から東へ離れ京都府に入ってから南へ向きを変え、大阪府へ移動していたことがわかりました。放鳥後、初めての長距離移動であったため、その動きが注目される中、この個体は、今度は西へ向きを変え兵庫県の西宮市・神戸市を通過して北上を始めました。すると、不明になってから三日後には、郷公園の野生化ゾーンに、何事もなかったかのように佇んでおりました。約350kmの旅からあっさりと戻ってきたのです。

この個体を含めて、2012年12月までに、少なくとも10羽(延べ14回)が、1日以上豊岡盆地を離れています。最も西は島根県松江市まで、最も北は石川県鳳珠郡能登町まで、最も東は長野県上伊那郡中川村まで、そして最も南は和歌山県東牟婁郡串本町までの移動が確認されました(図1)。

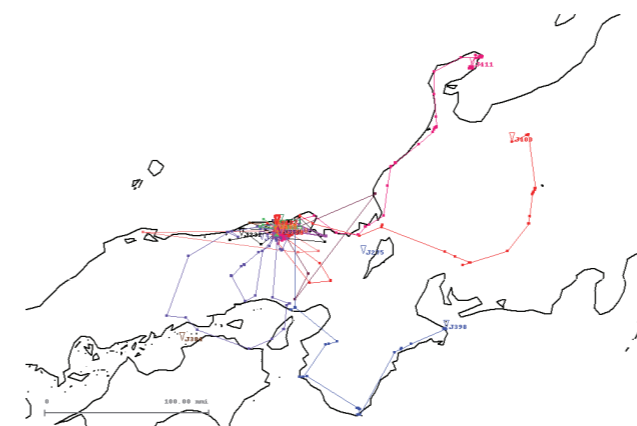


図1. 兵庫県豊岡市で放鳥された、1歳以上のコウノトリの移動と帰還(2012年12月31日現在)。



ところが、途中で死亡または不明になった個体を除き、長距離を移動してもすべての個体が豊岡盆地に帰還し、そして定着しております。野生復帰計画の中では放鳥後の定着をめざしておりましたので、帰還し定着することは成功したことになります。

### 野外で巣立った幼鳥の遠出

放鳥拠点も含む野外で巣立った幼鳥の最初の遠出は、2008年3月17日に、兵庫県西宮市で確認されました。この個体は、2006年に巣立ちし放鳥されたのですが、1年10ヶ月経って豊岡盆地を出たことになります。さらに、2007年に野外で初めて巣立ちした幼鳥も、翌年になっても豊岡盆地内にいたため、1年以内の幼鳥の遠出は無いと思われていました。ところが、2008年8月4日に、その年巣立ちした1羽の幼鳥が、兵庫県篠山市で目撃され、その後、長崎県、広島県、島根県まで

移動したことが確認されました。さらに、この年は、この個体も含め、巣立った8羽のうち3羽が巣立ち後40～44日で親から離れています。幼鳥のすべてではないですが、遠出をする個体がいることが確認されました。

2012年までに、同じく野外で巣立った幼鳥は計56羽おりますが、同年12月までで、少なくとも43羽(延べ129回)は、1日以上豊岡盆地を離れたことがあります。最も西は長崎県北松浦郡小値賀町まで、最も北は青森県下北郡佐井村まで、最も東は岩手県陸前高田市まで、そして最も南は鹿児島県南さつま市

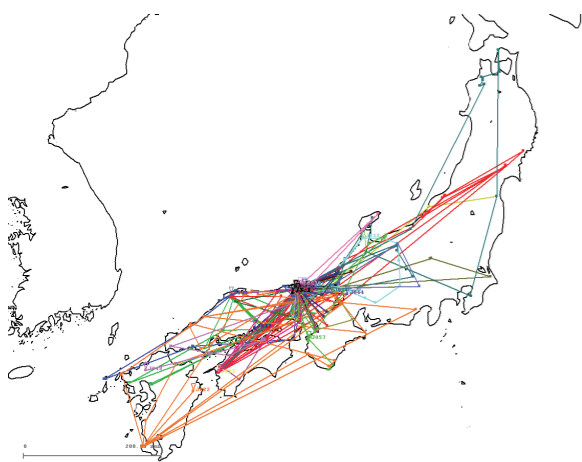


図2. 兵庫県豊岡市で巣立ったコウノトリの移動と帰還(2012年12月31日現在)

までの移動が確認されました(図2)。ところが、一見、全国を広く移動しているようにみえますが、そのほとんどはまもなく帰還し、また長期間移動していた個体も繁殖年齢に達すると豊岡盆地に戻ってきました。そのため、他地域で定着・繁殖する個体は未だ出現していません。

多くの鳥類では、分散の機能は近親交配を回避するためと言われています。ところが、コウノトリの場合、その個体にとっての最初の遠出の季節を見ると、2～3月と8～10月にピークがありました(図3)。近親交配の回避であれば、繁殖年齢に達する前に、いつでもいいから親や兄弟姉妹から離れてゆけばいいので、季節的にピークがある必要はありません。一方、この時期は、大陸の野生個体の渡りの時期に相当することから、コウノトリにとっての遠出は、渡りの衝動に起因していると考えられます。

### 分布の拡大

放鳥個体も野外巣立ち個体も、豊岡盆地を離れて遠出をしたにもかかわらず、そのほとんどは戻ってきました。他の場所に行ったけれども、生活・繁殖する上では、豊岡盆地の方が良かった結果で

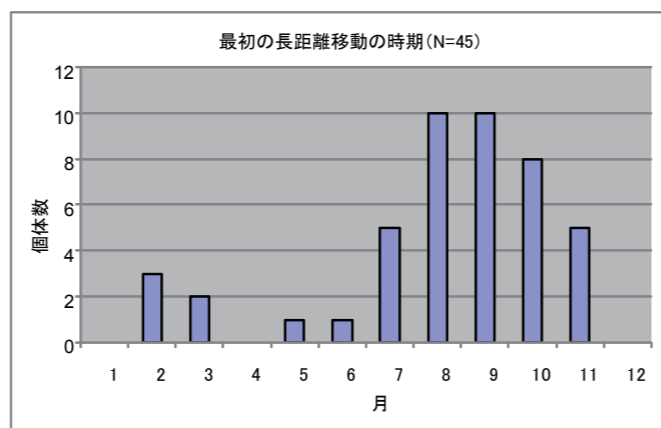


図3. 最初の遠出(長距離移動)を行なった時期

あれば、それはそれで、豊岡盆地のコウノトリの生息環境が整備されつつある成果と評価できますが、一方で、豊岡盆地から遠く広く分散して新しい繁殖地を確立してゆくことも必要です。なお、2012年に、初めて京都府に新しい繁殖地ができてはいますが、県外と言っても郷公園から9.5kmしか離れていませんので、まだ分布の拡大とは言えません。

分布を拡大するためにどうするか。コウノトリの場合、ある場所に定着するためには同種の仲間がいることが必要条件のようです。これを満たす方法のひとつとしては、野生復帰する場所を全国に増やしてゆくことです。しかし、それが可能となるまでは時間も財源もかかります。それまでは、昭和32年に福井県旧武生市で起こったようにペアとして移動してもらうか、幼鳥が全国を飛び回る先で大陸から渡来した野生個体と出会うことを期待するしかないでしょう。これからも遠出した先での幼鳥の動きに注目する必要があります。

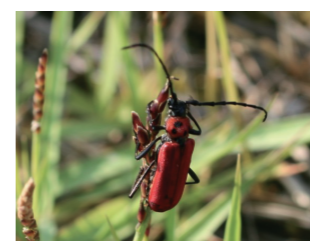
## 郷公園で確認したいきもの (5月1日～6月30日)

|  |   |   |  |  |
|--|---|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>[貝類]</li> <li>カワニナ</li> <li>マシジミ</li> <li>マルタニシ</li> <li>[クモ類]</li> <li>アシナガグモ</li> <li>オニグモ</li> <li>コガネグモ</li> <li>ゴミグモ</li> <li>スグロオニグモ</li> <li>[甲殻類]</li> <li>サワガニ</li> <li>スジエビ</li> <li>ミナミヌマエビ</li> <li>モクスガニ</li> <li>[魚類]</li> <li>オイカワ</li> <li>カマツカ</li> <li>カワムツ</li> <li>キタノメダカ</li> <li>シマトリッポウ</li> <li>タイリクバラタナゴ</li> <li>タモロコ</li> <li>ドジョウ</li> <li>ドンコ</li> <li>ムギツク</li> <li>モツゴ</li> <li>ヨシノボリの仲間</li> <li>[昆虫類]</li> <li>アメンボ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>イトトンボの仲間のヤゴ</li> <li>オオコオイムシ</li> <li>オオコキブリ(幼虫)</li> <li>オオスズメバチ</li> <li>ガガンボ類(幼虫)</li> <li>キイトンボ</li> <li>キイロサナエ</li> <li>キイロスズメバチ</li> <li>クロゲンゴロウ</li> <li>クロコキブリ</li> <li>クマバチ</li> <li>ケラの仲間</li> <li>ゲンジボタル</li> <li>コオニヤマトンボ</li> <li>コシボソヤンマのヤゴ</li> <li>コシメダカ</li> <li>コシメダカ</li> <li>コブシハバチ(幼虫)</li> <li>コヤマトンのヤゴ</li> <li>サナエトンのヤゴ</li> <li>シオカラトンボ</li> <li>シオヤンボ</li> <li>ジョウカイボン</li> <li>ジョウジョウトンボ</li> <li>タイコウチ</li> <li>ニホンカワトンボ</li> <li>ハグロトンボ</li> <li>ハッチョウトンボ</li> <li>ハルゼミ</li> <li>ハンミョウ</li> <li>ヘイケボタル</li> <li>ヘニカミキリ</li> <li>ヘビトンボ(幼虫)</li> <li>ヒオドシチョウ</li> <li>ヒメヤマムシ(幼虫)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>マイマイカ(幼虫)</li> <li>マツモムシ</li> <li>モートンイトトンボ</li> <li>[両生類]</li> <li>ウシガエル</li> <li>シュレーゲルアオガエル(卵塊と成体)</li> <li>ツチガエル</li> <li>トノサマガエル</li> <li>ニホンアカガエル</li> <li>ニホンアマガエル</li> <li>モリアオガエル(卵塊)</li> <li>ヤマアカガエル</li> <li>[爬虫類]</li> <li>アオダイショウ</li> <li>シマヘビ</li> <li>スッポン</li> <li>ニホンイシガメ</li> <li>ニホンカナヘビ</li> <li>ニホントカゲ</li> <li>ヤマカガシ</li> <li>[鳥類]</li> <li>アオサキ</li> <li>イカル</li> <li>エナガ</li> <li>カイツブリ</li> <li>カルガモ</li> <li>カワセミ</li> <li>カワラヒワ</li> <li>キセキレイ</li> <li>キビタキ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>コウノトリ(野生)</li> <li>コケラ</li> <li>コシアカツバメ</li> <li>サシバ</li> <li>サンコウチョウ</li> <li>サンショウクイ</li> <li>シジュウカラ</li> <li>スズメ</li> <li>セグロセキレイ</li> <li>ダイサギ</li> <li>ツバメ</li> <li>トビ</li> <li>ハシボソガラス</li> <li>ヒヨドリ</li> <li>フクロウ</li> <li>ホオジロ</li> <li>メジロ</li> <li>ヤマガラス</li> <li>[哺乳類]</li> <li>アナグマ</li> <li>アブラコウモリ</li> <li>イタチの仲間(糞)</li> <li>ニホンイノシシ(土耕跡)</li> <li>ニホンジカ</li> <li>[植物/主に開花中のもの]</li> <li>《草本》</li> <li>オオイヌノフグリ</li> <li>カタハミ</li> <li>キュウリグサ</li> <li>キンシバイ</li> <li>コナスビ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>コメツブツメクサ</li> <li>コモチマンネングサ</li> <li>サワオグルマ</li> <li>シロツメグサ</li> <li>セイヨウタンポポ</li> <li>タチイヌノフグリ</li> <li>タツナミノウ</li> <li>チチコグサ</li> <li>ツメクサ</li> <li>ドクダミ</li> <li>ニガナ</li> <li>ニワセキショウ</li> <li>ヒシ</li> <li>ヒメジオン</li> <li>マムシグサ</li> <li>ミヅカクシ</li> <li>ムラサキササキコケ</li> <li>モウセンゴケ</li> <li>ヤハスエントウ</li> <li>ワスレナグサ</li> <li>《木本》</li> <li>ガマズミ</li> <li>サンショウ</li> <li>タニウツギ</li> <li>フジ</li> <li>ホオノキ</li> <li>ヤマホウシ</li> <li>ヤエヤマフキ</li> </ul> |
|--|---|---|--|--|

\* お詫びと訂正 先月号の確認したいきものの中に「ノジミレ」と載せていましたが、「ヒメスミレ」の間違いでした。



モリアオガエルの卵塊



ベニカミキリ



コナスビ



ニホントカゲ